

おはようございます。

4月7日の県知事選挙におきまして、多くの県民の皆様のご支持を頂戴いたしまして、去る30日に県知事に就任いたしました丸山達也でございます。県職員の皆さん、これからぜひともお力添えをよろしく申し上げます。

私は、平成25年から3年間、この島根県庁で皆さん方と一緒に仕事をさせていただいた仲間でございます。また県民の皆さんの生活向上、島根県の発展のために皆様と一緒に仕事をする機会をいただいたことを本当にうれしく思っております。何事にも真摯に取り組まれる県職員の皆さんとその能力を、私は十分経験いたしておりますので、大変心強く思っております。

私がこの選挙にあたりまして掲げました大きな公約は、島根の人口減少に歯止めをかける、人口減少に打ち勝つ島根を作る、という大方針を県政の真ん中に置いて、全力で取り組むことでもあります。これまでも溝口前知事のもと、地方創生総合戦略のなかで、2040年までに出生率2.07、そして県全体の人口流出をゼロにするという、明確な方針を掲げ、方向性は示されておられるところでございますが、これをより強力に、そして施策の中心において、進めていくということでもあります。

子育てをしていただく、若い皆さんに島根に残っていただき、島根に戻ってきていただくために、1次産業から2次産業、3次産業までの産業振興を一層進めていきます。そして、今、子育てをしていただいている若い世代に、もう一人子どもを育ててみようと思っただけのような、子育ての支援の充実、そして、働きやすい環境の整備を進めることで、島根に産まれる子どもさんの数を増やしていくということに、全力で取り組んでまいります。

そのためにも産業振興の基盤になります、山陰自動車道の全面開通を始めとした、社会インフラの整備を進めながら、長年の課題である人口減少対策、中山間地域・離島への支援の拡充などに取り組んでまいります。

これらの政策の充実のために、県財政の厳しさは変わりませんので、既存の事務事業、そして仕事の量をいかに抑制スクラップをしながら、新しい政策を進めていくかということが、同時に必要となってまいります。

そうした意味で、職員の皆さんには両面からの不屈の努力をお願いすることになりますけども、私が今回の選挙を通じていただきました県民の皆さんの強い願い、思いは私自身に向けられたものだけではなく、島根県庁、島根県の職員の皆さんの能力とやる気をもってすればできないはずはない、という強い期待の表れでもあります。

その県民の皆さんの期待に応えるためにも、皆さん方のお力添えをいただきまして、ぜひともその島根創生、人口減少に打ち勝つ島根の実現への道筋をつけていきたい、と思っておりますので、ご協力をお願いする次第でございます。

次に、仕事の進め方のことになりますけれども、私は、産業振興を進めるうえでも、トップセールス、そして、県内の各産業、県民の皆さんの生活の状況を、自分のこの目を見て、自分のこの耳で聞いて、その県の政策の方向性が間違っていないかどうか、やるべき政策がないかどうか、ということ、現場主義を徹底するといった形で取り組んでいきたいと思っております。

職員の皆さんにも、県のあらゆる施策が県民の皆さんの生活、県内の事業者の皆さんの発展のために直接的に効果をもたらす、具体性をもった政策を展開するために、職員の皆さんにも県民の皆さんの生活や事業者の皆さんの実態をよくよく把握していただく、ということにあわせて努めていただきたいと思いますと思っております。

国の政策は一般的に、全国の中で展開されます。それをいかに島根の現状に合った、島根らしい政策に現実問題として落とし込んでいくか、という工夫も求められます。そうした上でも、私自身も皆さん方も県民目線、現場主義、ということに重きを置いて、政策の立案、展開をしていただきたいと思います。

また、リーダーシップとボトムアップの関係でございますが、私自身は両者をうまく組み合わせることがもっとも正しい道だと思っております。片方だけではうまく進みません。

政策、課題ごとに応じて、皆さん方から、知事の明確なリーダーシップを対外的に示すことが、より良い結果をもたらすということであれば、意見をいただいて、自分で判断いたします。自分がリーダーシップをもって進めるべきと思ったことでも、皆さんからすると、よりボトムアップを積むべきだという話があれば、適宜に判断してまいります。

私自身は県庁で3年間仕事いたしました、逆に言えばわずか3年、そして県民としてはまだ3年を過ぎた4年の途中、ということで、ある意味、いろいろ知らないことがたくさんございます。知事にものを言うというのは若干気が引けるかもしれませんが、私自身は、皆さんに比べると、島根についての知識が劣っているということを前提として、知事職を務めてまいります。

私が県としての判断を誤らないように、気づいたことは率直にご指摘をいただきたいと思いますと思っております。

もう一つ、先ほど申し上げました、現場主義の徹底、そしてトップセールスを含めた対外的な活動は、これまでよりも充実して取り組んでいくつもりであります。その結果、これまでよりも県庁にいる時間が短くなるかと思っております。そのようなところは、秘書課、政策企画局とよく調整いたしまして、簡易なやり方で意思疎通、相談をしていただけるように工夫をしていきたいと思っております。そうした工夫を重ね

ながら、仕事のやり直し、手戻りの無い効率的な意思決定、県政運営に努めたいと思っております。何よりも今回のこの島根創生の実現に向けて、私自身は、オール島根、党派を超えてすべての県民の皆様と手を携えて進めていくということを訴えて、お約束してまいりました。

そのオール島根の最初はオール県庁でございます。まず、皆さん方のご支援、ご理解をいただきまして、島根県の持てる、島根県庁の持っている力を最大限発揮していくことがオール島根で、島根創生を実現していく第一歩だと思っております。

そうした意味でも、皆さん方が働きやすくアイデアが出る、やる気がおきる職場環境にも努めてまいります。私自身も、部下の皆さんの仕事の負担をいかに減らしていくか、仕事のやり直し、手戻りがないように、いかに早めに相談を受けて、早めに指示を出していくか、ということを中心に心がけていきます。幹部職員の皆さんも同じような形で部下職員の皆さんの労力が最小限で最大限の効果を生むような職場環境に努めていただきたいと思います。

改めてになりますけども、島根県政に対する、県民の皆さんの期待度は大変大きいものがございます。

私は、当選後、また就任後、いろんな場面で県民の皆さんにお話を伺う機会がございました。「島根をよろしく願います」といった激励を、年代を問わずいただきます。また、幼いお子様を連れた若い親御さんから、「子どもたちのために頑張ってください」と言われることもたびたびございます。

こうした期待は重ねてになりますが、私のみならず、県庁の皆さん、全体に向けられた期待でございます。この県民の皆さんの期待を実現すべく、県庁の力を全力で発揮して、引き出して、取り組んでまいりたいと思っておりますので、ぜひとも皆さんのご奮闘、ご協力をお願いする次第であります。ぜひともよろしく願います。